広報のあさひ

No.393
'89
8/15

(7/30　全国イカダ下り大会)

朝日山麓家族旅行村

Asahi自然観

10月5日オープンまで あと50日（8月16日現在）

7月1日から、朝日山麓家族旅行村・朝日自然観のコテージ村（貸し別荘）とキャンプ場、それにコーヒーハウス「そら」がオープンしました。そこで今月は、これまでの利用状況を紹介しながら、10月の全面オープンに向けての取り組みをお知らせします。

なったら自然人

七月は六千人が来村 コテージに人気集中

ホテルやスキー場のリフト建設工事がかたわらですすめられている中、七月一日からの一部オープン。コテージなどを利用される方には、工事の作業音などでご迷惑をおかけしている状況にあったものの、七月中はおよそ六千人の来村者がありました。まだ全面オープンでないため、来村された方の多くが町内外から施設の見学に来られた方で、朝日自然観への期待と関心が高まっています。

七月一日からオープンしたコテージ十七棟の利用状況をみますと、七月中で利用のあった日が二十日間、利用棟数は延べ百二十六棟で五百六十人の利用をいただきました。コテージ棟数に対する利用棟の割合を示す稼働率は二四・七%。一日平均にしますと四棟、利用者数は十八人となっています。

八月に入りますと、夏休みとも重なって、一日から六日までの来村者数はおよそ千三百人。コテージも六日間で五十五棟の利用で五三・九%の稼働率となりました。その後のお盆の時期は、二十日前後まで連日予約でいっぱい。八月全体の予約の状況は三百十棟と、五八・八%相当の稼働率となる見込みで、まずまずのスタートといえます。

利用者の半数が 町外からの家族連れ

キャンプ場はやはり利用者の多くが子供たちで、夏休み期間の土曜、日曜を中心に子供会行事による利用がほとんど。七月は夏休みに入った下旬に集中し、延べ四十三棟、二百人が利用しました。八月中は五十六棟の予約が入っています。

これらコテージの利用者を大別すると、親戚や身近な友人を含め家族を中心とした利用と、職場やサークル、地域仲間でのグループを中心とした利用に分れるようです。そして半数以上が町外の方の利用で、山形市や天童市、遠くは仙台市からのお客様が来村しています。

その来村のきっかけを聞いてみますと、町民の方々

自然観は新たなコミニュケーションの場

完成間近のホテルは自然観のシンボルタワー

休みに

からの口コミや実際に来村された方からの紹介によるものが多く、また、仙台など県外からのお客様は、特に過般放映されたＮＨＫテレビ『東北アワー』の番組を見て訪れたという方もかなりおります。

利用者が思い思いにコテージライフを創造

このコテージは、県内でも新しいタイプの、貸し別荘に類した宿泊施設です。では、利用された方はコテージライフをどのように過ごされたのでしょうか。

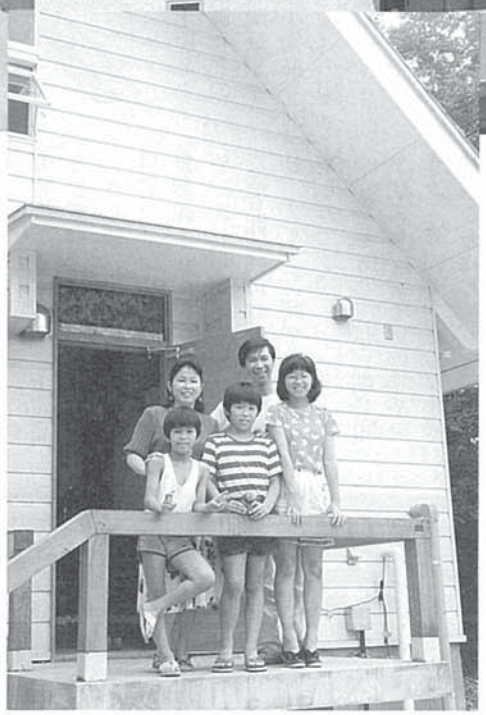
利用される曜日は、やはり週末がもっとも多く、週休二日制が全体的に普及したとはいえないものの、金曜日から日曜にかけての、一泊二日の日程での利用形態となっていますが、週末以外の利用も増えています。

現在、テニスコートや遊歩道など、自然観での屋外活動を主とした施設が完成していないため、コテージ内や付近の散策を中心とした利用です。

また、今のところホテルでの食事のサービスができませんので、飲食物を持ち寄って利用いただいておりますが、室内には機能的で簡素な台所と家族を想定した食器類一式が用意されておりますので、家族連れの方は好みの料理をつくって会食を楽しむといった利用の仕方となっています。

グループの場合は、やはりそのサークル内の懇親を目的とした行事をコテージを利用して行うといったケースが多く見られ、また、研修会を目的として日帰りで利用された団体もありました。

料金は四人定員の一棟を一万円前後で貸し出しするシステムですが、一人当たりにすると三千円ほどの宿泊料は利用者にとって魅力の一つともなっています。また、コテージやキャンプ場内にはバーベキュー用の道具が用意されており、申し込み時に予約すれば軽費で借りることができます。



コテージは家族のいこいの時間をとりもどす新しい空間となっている

朝日自然観のオリジナル商品

清酒「自然観」などオリジナル商品開発

〝観光地〟になくてはならないのがお土産品。その字のごとく、地元の特産品やそこでしか買い求めることのできないオリジナル商品が喜ばれます。

朝日自然観では滞在観光での施設利用とともに、地元の特産品や独自のお土産品の開発・販売も大きな活動の一つです。お土産品としては、菓子やお酒などの飲食物、伝統的な玩具やキーホルダーなどの小物品、Tシャツやタオルなどの服装品などが考えられます。

食べ物類ではリンゴやブドウなど地元の農産物のほか、施設内の畑でとれたワラビやシイタケなどの林産物を加工・販売します。また、地酒を自然観独自の容器に入れ、七月一日から清酒「自然観」として発売。お客様から手軽なお土産品として喜ばれています。

さらにお土産として、朝日町ワインをベースとした自然観オリジナルのワインや、地元の菓子店でも新たな商品開発に取り組んでおり、オープン時での発表が楽しみです。

小物品としては、朝日自然観のロゴタイプの字やマーク入りのキーホルダーや栓抜きをはじめ、服装品では昨年十二月のCI発表会でも紹介しましたTシャツやトレーナー、タオル類も自然観グッズとして販売することにしています。

待望のホテル自然観間もなく完成

朝日自然観のメイン施設となるホテル自然観の本体工事が、いま八月末の完成をめざして急ピッチですすめられています。外装はほとんど完成し、内装工事を残すのみ。

完成後は、九月に入ってから調理器具や寝具類などの備品が配備されますが、これと合わせ現在、山形市や天童市で研修中の調理師やホテルマンなど、朝日自然観のスタッフが顔をそろえ、ホテル自然観での具体的な営業活動の準備に入ります。

それぞれ新しい施設での新たな活動ですので、九月下旬には〝試験運転〟の期間を設け、町民の方々からお客様になっていただき、その実際的な接客や料理などのサービス業務の円滑な運営をはかりながら、十月からの本番に備えることにしています。

また、九月末までには村内に四面のテニスコートや催しもの広場が完成し、自然観での活動範囲がぐっと広がります。

オープンを記念する多彩なイベントを計画

町では十月五日の朝日自然観オープンを記念し、多彩なイベント（行事・催し）を計画しています。これらは、朝日自然観の実質的なスタートを町民の方へあらためてお知らせし、町民共有の施設としての朝日自然観の完成とオープンを祝うとともに、今後の誘客運動をすすめる上でも県内外へのPRに重要な行事です。

21世紀への確かな財産として子供達にのこしていかなければならない

Asahi自然観 オープン記念イベント

10/2(月) 開村記念式典

●町内外の来賓を迎えて、落成と開村をお祝いします。
（AM10:00～PM3:00・Asahi自然観）

10/5(木)～15(日) 山里まつり オープン

●ホテル自然観グッズ等の紹介と、ふるさとの味や物産の即売を行います。
（AM10:00～PM3:00・Asahi自然観）

10/7(土) 沢田聖子 Fresh in Asahi

●シンガーソングライターの沢田聖子さんを迎えて、野外コンサートを開きます。入場料無料。
（PM1:30～4:00・Asahi自然観）

10/8(日) スポーツフェステバル

●Asahi自然観内に2つのコースを設け、チェックポイントでの設問を解きながらの楽しい健康ウオーク（散策）大会を開きます。
（AM8:30～PM2:00・Asahi自然観）

10/10(火) 第6回アップル町民駅伝競走大会

●中央公民館をスタート及びゴールとして、町内（17区間）を一周する世代リレーの地区対抗駅伝を行います。
（AM8:30～PM2:00・中央公民館）

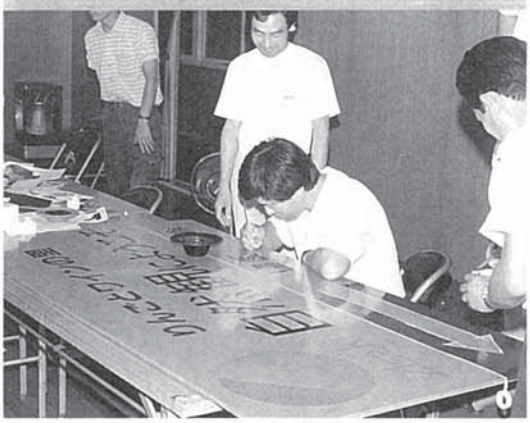
10/11(水)～12(木) シンポジウム'89 in Asahi "Happiness & Success"（幸せと成功） 日比結婚

●県内外の自治体職員を対象に、フィリピンとの国際結婚をテーマとしたシンポジウムを行います。
（PM1:00～・農業団地センター）

10/14(土)15(日) 大きな自然と大きな教室

●熱気球体験飛行コーナーや木材などの林産物を利用した体験教室を開きます。
（AM10:00～PM2:30・Asahi自然観）

Asahi自然観の宿泊予約・問い合わせは
☎0237-67-7111



自然観の案内板づくりに励む西部壮年会のみなさん

十月二日の開村記念式典をスタートに、オープン日の十月五日から十五日までの十日間をオープンキャンペーン期間として設定し、食べ物と物産を主とした山里まつりや女性歌手を招いての音楽の祭典。また、健康ウォークや熱気球体験飛行などの多彩なスポーツイベントを計画しています。

さらに、四年前から町が取り組んでいる国際結婚の推進に関して、フィリピンのアブカイ町との国際交流をねらいとしてシンポジウムを開くなど、実りの秋、スポーツの秋、文化の秋にふさわしい内容の催しを計画しています。

これまで、町民の方からは町外の親戚、知人の方々へ口コミなどでPRにつとめていただいており、またお盆などを機会に開かれた同級会などでも、自然観のパンフレットなどをお配りいただきながら誘客運動に陰ながらのご協力をいただいています。

また、町外から来られるお客様を迎えるにあたり、自治公民館を中心とする全町的な花いっぱい運動が展開されています。さらに西部壮年会（海野義弘会長）では、活動の一環として手作りの案内板を道路の要所要所に設置するなど、具体的な協力が築かれつつあり、あと五十日あまりに迫った開村が待ち望まれます。

白倉地区での投票風景

県内第2位

投票率 87.69%

「連合の会」星川候補が初当選

参議院議員選挙結果

七月五日に告示された参議院議員通常選挙の投票が七月二十三日、町内二十の投票所で行われました。

朝日町の投票率は、前回の衆参同日選挙（昭和六十一年七月六日）での九一・四%には及ばないものの、八七・六九%と県内で二番目（第一位は大蔵村）の高い投票率となりました。

開票は同日午後七時から中央公民館大ホールで行われ、午後十一時二十分に県選出と比例代表の両選挙の開票が終了しました。

今回の選挙は「リクルート事件」や「消費税」「農政不信」など、国政を担う政治家のあり方や国民生活の身近な課題が争点で、政府自民党にとって「逆風」。「マドンナ旋風」に見られるように、立候補者や選挙活動に婦人層の参加が特に目立ち、選挙の結果、社会党が大躍進し参院で保革逆転。県選挙区でも「連合の会」から立候補した星川候補が自民党現職の降矢候補を敗り初当選しました。

●朝日町投票所における投票結果

区分	当日の有権者数	山形県選出議員選挙			比例代表選出議員選挙		
		投票者数	棄権者数	投票率	投票者数	棄権者数	投票率
男	4,056	3,538	518	87.23%	3,538	518	87.23%
女	4,235	3,732	503	88.12	3,730	506	88.08
計	8,291	7,270	1,021	87.69	7,268	1,023	87.66

●朝日町開票所における開票結果

山形県選出議員選挙（各候補者の得票数）

候補者名	得票数	党派
フルヤ敬義	3,679	自由民主党
星川やすまつ	2,865	連合の会
太田としお	415	日本共産党
小野喜公	121	日本青年社
得票総数	7,080	（有効投票数）
無効投票数	190	（うち白紙投票79）
投票総数	7,270	

比例代表選出議員選挙（各政党等の得票数）

政党等名	得票数
自由民主党	3,104
日本社会党	1,949
公明党	539
民社党	344
日本共産党	259
スポーツ平和党	103
第二院クラブ	86
年金党	82
税金党	75
新自由党	60
11位以下の計	339
得票総数（有効投票数）	6,940
無効投票数（うち白紙投票）	328（129）
投票総数	7,268

中央公民館で行われた開票風景

「そのうちに・・・」では婚期は待ってはくれません

「結婚」に親の出番うながす

後継者対策協と結婚相談員が合同会議開く

町や農協、商工会など九つの団体で組織する町後継者対策協議会（会長・小林町長）では、若者定住対策の大きな柱である未婚者の結婚推進に重点を置きながら、東京での集団見合いや都市部との若者交流会の開催、また各種団体が独自で行う交流会への支援や国際結婚の推進などを主な事業として取り組んでいます。

七月十四日、同協議会の総会が町役場で開かれ、今年度の活動方針や事業計画などについて話し合われました。特に、結婚適齢期の青年をもつ父兄との懇談会を新たな事業として計画。現代の「結婚」をとりまく社会環境を認識してもらいながら、当事者はもとより家族や地域の「結婚」に対する積極的な働きかけをうながすことにしています。

また、同月二十八日には町で委嘱している結婚相談員十一名の定例会議が高齢者生産活動センターで行われ、席上、後継者対策協議会委員との情報交換の場がもたれました。

結婚に関する相談相手として、また結婚をとりもつ「仲人さん」として結婚相談員への期待と役割は大きいながらも、結婚希望者の男女の人数差、また長男長女同士の問題が依然相談内容の多くを占め、思いどおりにはかどらないのが現状として報告されました。

会議では、現代の結婚観などについて熱い論議が交わされた後、今回のような活動面での相互の情報交換の場と事業の協力体制をはかり、きめの細かな活動を展開していくことを確認し合いました。

お気軽にご相談ください

結婚相談員のみなさん

本町	志藤 喜一	六七―二〇九二
〃	鈴木庄右工門	六七―二三九八
宿	佐藤 平吉	六七―二六三五
古槙	渡辺 薫	六七―二七一七
送橋	渡辺 太一	六七―七七五八
長沼	松田 正蔵	六七―七〇七七
高田	鈴木 侃	六七―七六四〇
松程	鈴木 秀一	六七―七二七六
栗木沢	遠藤喜右工門	六八―二四六五
〃	佐久間 源七	六八―二四六七
大暮山	小松 巌	六八―七六四〇

熱心な話し合いが行われた合同会議

●「結婚」に関する相談の役場総合窓口は、企画情報課企画広報係（後継者対策協議会事務局☎六七―二一一一）です。

愛だってチャレンジ精神！

日本青年館の集団お見合い

ふれ愛人〜ク

にいっしょに参加しよう！

と　き／10月1日(日)
ところ／東京・日本青年館
対　象／25歳から35歳位までの独身男性10名
費　用／1人およそ5万円
申込先／9月2日まで、町後継者対策協議会事務局（役場企画情報課企画広報係、☎67-2111内線222）へ

この出会いを通して、昭和58年からこれまで8組が結ばれています。参加にあたっては、結婚された先輩方のアドバイスや自己PR法など3回程度の事前研修を行います。気の合った友人仲間での参加、大歓迎です。

心配ごと相談員に榊さん就任

開設当初からの今井相談員が勇退

町長から委嘱状を受ける榊さん

毎週木曜日に中央公民館に設けられている「心配ごと相談所」。昭和四十九年の開設当初からその相談員として活躍されてきた新宿の今井孝一郎さん（82歳）が、高齢を理由にこのほど退任されました。

今井さんは旧宮宿町の収入役を退職後、町民の厚い信頼を得て初代の心配ごと相談員に就任。老人福祉相談員や国の人権擁護委員も努められ、十五年間にわたり多様な相談に献身的に当たられてきたものです。

今井さんに代わって、八月から大谷一の榊寿太さん（66歳・☎六八―二二五八）が新しい相談員に任命されました。榊さんは商工会事務局長を勤める傍ら、国の行政相談員としてこれまでも今井さんと一緒に相談に当たってこられた方です。

今後も、どうぞお気軽に相談所をご利用ください。

富山県

あさひまちを訪ねる

「広報あさひ」が友好のかけ橋

広報委員会の視察研修

「朝日町」という名の自治体は、全国に本町のほか福井県、三重県、富山県そして北海道と四つあります。その中で、呼び名も同じ「あさひまち」は、富山県下新川郡朝日町とわが町の二町だけ。

そんな縁で町広報委員会では、三年前から「広報あさひ」の交換を行い、広報紙を通した交流をはかっていますが、去る七月十七日から一泊二日の日程で、実際に富山県朝日町を訪ね、広報活動を中心に「あさひまち」の町づくりを視察、研修しました。

富山県の「広報あさひ」

富山県朝日町は人口が約一万八千人。日本海に面し親不知子不知海岸のすぐそばの、新潟県との境に位置する町です。西に白馬岳や

2の5松程が紫 1の6上郷は惜しくも紅

西村山消防操法大会

県消防協会西村山支部の消防操法大会が八月六日、西川町の町民グラウンドで開かれました。大会には、西村山の一市四町からそれぞれ二チーム、合わせて十チームが出場、日頃の訓練の成果を競い合いました。

今大会には、朝日町消防団の代表として第一分団第六部（上郷地区・柴田実部長）と第二分団第五部（松程地区・鈴木竹松部長）の小型ポンプ班、二チームが出場。二つの部とも、六月半ばから約二か月間、日曜日を除く毎朝五時三十分から約一時間を利用して、緑が丘グラウンドで団幹部や消防朝日分署員らの指導でポンプ操法の訓練に励んできたもの。

大会ではそれぞれ見事な操法を披露し、両チームとも紫（金賞）かと思われましたが、審査の結果、惜しくも一分団六部が紅（銀賞）。しかし両チームの総合得点が高く、町団として準優勝に輝き日本消防協会旗が贈られました。優勝は大江町消防団、高得点を上げた最優秀と優秀チームは大江町と寒河江市からの出場チー

健闘した1の6と2の5の出場選手のみなさん

親不知海岸を展望する城山公園にて

ファミリーランドのバーベキューひろば

朝日岳など三千メートル級の北アルプスを望み「海抜ゼロから三千メートルの町」がキャッチフレーズ。

二日間にわたって、町役場での情報交換や町内の観光施設などを視察した町広報委員会の一行十四人は、「朝日中学校」あり「朝日岳」あり「朝日町民憲章」ありで「朝日」づくしにおどろきながら、朝日町ワインや清酒自然観をお土産に持参してわが朝日町をPR。これからも同町名を縁に「広報あさひ」姉妹町としての友好をはかっていくことにしています。

水はみんなの大切な財産です

節水にご協力を！

今年の天候は異常です。昨年末の少雪とカラ梅雨で雨が少なく、水源が非常に細くなっています。特にお盆中は帰省客もあって人口が倍増し、水の需要が多くなります。

この状態ですと、一部の地区の皆さんに断水のおそれがあります。水まき・洗車・幼児用プールなど、なるべくご遠慮いただき、節水にご協力をお願いいたします。

朝日町水道事業所

ムでした。各部からの出場選手は、次のとおりです。

●第一分団第六部
指揮者　斎藤和彦（杉　山）
一番員　佐藤広勝（宇津野）
二番員　柴田茂夫（大　滝）
三番員　安藤善宏（松　原）
補欠員　細谷忠治（宇津野）
　〃　補欠員　佐藤武志（大　滝）

●第二分団第五部
指揮者　阿部知一（松　程）
一番員　鈴木敏一（　〃　）
二番員　鈴木敏広（　〃　）
三番員　中村和晴（　〃　）
補欠員　向　利和（　〃　）
　〃　阿部隆治（　〃　）

白衣の天使

町立病院の看護婦を募集します

朝日町職員採用試験受験案内

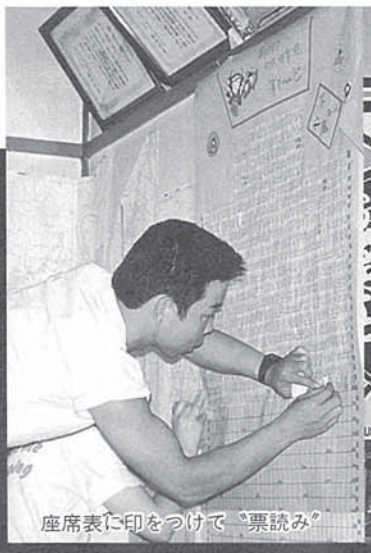
●職種／看護婦
●採用予定人数／一名
●受験資格①年齢要件／昭和四十一年四月二日以後に生まれた方②住所要件／平成元年七月一日以前から本人もしくは保護者が朝日町に住所を有し、将来にわたり町の発展に尽力する意志のある方③資格要件／保健婦助産婦看護婦法（昭和二十三年法律第二〇三号）による看護婦の免許を有する方、または平成元年度中に免許取得見込みの方。
●試験日時／十一月上旬（申込者に後日連絡します）
●試験場／朝日町役場
●試験内容／作文試験・面接試験を行います
●受付期間／八月二十一日から九月五日まで。
●受験手続き／受験用紙は役場総務課にあります。受験申込書に所要事項を記入し、裏面に最近の上半身の写真を貼って、役場総務課に提出して下さい。
●採用／最終合格者は平成二年四月一日に採用予定。
●問合先／総務課（庶務係）
☎六七二一一一内線二一三

笑いと感動を呼んだきゃらばん公演

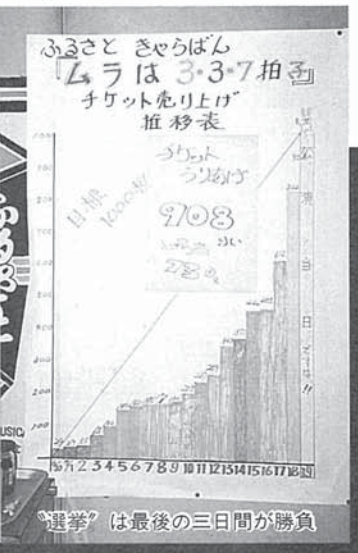
両目が入ったりんごダルマにニンマリの
"選挙参謀" 長岡副団長

"選挙戦"

"当選ライン" の八百枚を突破して
思わずバンザーイ!



座席表に印をつけて "票読み"



"選挙" は最後の三日間が勝負

特大の "選挙看板" が完成

暑いさなかの "選挙戦" は冷麦がいちばん

ん

ん

だ

カメラあんぐる

最後に公演契約にサインをする清野団長

"選挙カー"をくり出して公演を呼びかけました

公演当日まで まさに

やっ

た

ネ!

劇団ふるさときゃらばん公演に青年団パワー全開!

7月19日、3年ぶりの「劇団ふるさときゃらばん」公演が町民体育館で行われた。この公演の大事業に取り組んだのは、もちろん町の連合青年団（団員111人）。今回の劇「ムラは3・3・7拍子」は、ある村の村議会選挙を通して繰り広げられる、夫婦や仲間たちのうごめく人間愛がテーマ。青年団では公演成功に向け実行委員会を組織し、6月17日の事務所開きで活動開始。折しも参議院議員の選挙期間中で、チケット売りなど団員たちの日夜の活動は、7月19日の"投票日"に向けた、まさに"票集めの選挙戦"といったところ。「勇気をもって取り組めば何事もできるという自信を得た」。清野寿浩団長の"当選"のことばだ。

会場では"支持者"のおしみない拍手がいっぱい

看板づくりに励む"運動員"

せ

い

ね

ことばの発達を願って
―その不自由な原因は何か

昭和五十八年、宮宿小学校に「ことばの教室」が設けられて、今年で七年になりますが、これまで、ことばに何らかの問題のある子ども達のことで、多くの方が相談に見えられました。私はこの「ことばの教室」を担任し、通ってくる子ども達に接し、さらにお母さん方と話し合う中で、ことばの発達に大切なことは何なのか、つねに考えさせられてきました。

早いうちに窓口へ

「うちの子は、前からことばが遅いと思っていましたが、三歳近くになると、もう心配で仕方ありませんでした。眠れない夜もありました。周りの人達は「ことばの遅い子どもはいくらでもいる。そのうち、しゃべるようになるだろう」と軽く言いますが、親にしてみれば、そんな軽い気持ちではいられません。保健婦さんに何度も相談しました。保健婦さんからは「ことばの教室」という教室が、宮宿小学校にあることを知らされました。祈るような思いで「ことばの教室」に電話をかけたのでした」。

＊

これは、子どもさんのことばの発達の遅れを心配して、ことばの教室を訪れたあるお母さんの手記です。このような心配は、そう簡単にことばで表現できるものではないと思いますが、そんなお母さん方の気持ちを聞くことから、私達の指導が始まります。

しかし、ことばについては、教室の中だけの指導ではなく、お母さんを中心とした家庭と、ことばの教室とを結んだ二人三脚の中で進められるものなのです。

いうならば、私達とお母さんの間で共通理解を図りながら、一歩一歩進めていくのがことばの指導です。

今回は、これまでのささやかな実践を通して得たことの中から、ことばを健全に発達させるためのポイントは何か、ということについて述べてみたいと思います。

ことばの教室に通ってくる子ども達の中には、「ことばの数が少ない」「言われたことはわかるが、自分からはなかなか言えない」子がいます。これらの子ども達は、発語器官に問題があるのではありません。身体的には特に問題はないのです。

しかし、そういう子ども達に共通していることに、赤ちゃんの頃、「おとなしくて手がかからなかった」「あまり泣かなかった」ということがあるようです。つまり、ことばの発達には、生まれて間もない赤ちゃんの頃の生活がとても大切になってくるのです。そこで、赤ちゃんの成長のこともふまえて、考えてみたいと思います。

思いやりのある対応

一、心が通い合う親子関係

生まれたばかりの赤ちゃんにできることは「泣くこと」「吸うこと」「手足を動かすこと」です。赤ちゃんが泣けば、お母さんはやさしく語りかけながらあやします。赤ちゃんは、お母さんのことばがわからないかも知れませんが、泣けば世話をしてくれるということを覚えるのです。

そして、赤ちゃんは「ぐずる」ことも始めます。でもお母さんがだっこをしてやれば、赤ちゃんはニコッと笑います。こんなことを繰り返しながら、赤ちゃんは人と一緒にいる喜びや人に対する関心と興味をもち始め、人とのやりとりを楽しむことを覚えるのです。

「ことばの教室」での指導風景

二、よい聞き手になること

赤ちゃんは、機嫌のいい時には、さかんに声を出して語りかけようとするものです。お母さんが笑顔でそれに応じてやれば、赤ちゃんはますます大きな声を出します。また、何か興味のあるものを見つけた時は、まわりの人に知らせようとして「指さし」をします。

これらは、相手の人と心のつながりを求めているきざしです。ことばで話す前の段階の行動なのです。赤ちゃんがそういう行動をした時は、それに応じてやることが大切です。ことばにならないことばで何かを伝えようとする気持ちを、よく理解することが大切なのです。

三、よいことばの刺激を

幼児期に入ると、ことばを覚え、使い始めます。はじめのうちは、不完全で、まちがった話し方をするのは当然です。そういう時は注意をしたり、無理に直そうとするのは禁物です。そんなことをすれば、子どもに、ことばに対する自信を失わせ、不安感をつのらせます。無理に言い直させたりせず、その子のいうことをよく聞くことです。まわりの人が正しいことばで接していくうちに、ことばは自然に正しく育っていくでしょう。

四、できるだけ豊かな体験を

ことばは、人と人との交わりの中から生じるものです。ですから、幼児のうちから、いろいろな友達と遊びの場を設けることが大切です。友達と遊んだり、外でかけ回って、子どもの関心と興味を外に向かって広げることが、ことばを豊かに発達させることになるのです。

よいことばは家庭から

以上、四つのことをお話ししましたが、ことばは、安定した親子関係、対人関係の広がりなどが土台となり、その上に成り立っているといえましょう。

次の手記も、子どもさんをことばの教室に通わせている親ごさんのものです。

＊

「うちの子は二歳になっても意味のあることばが出てきません。そこで、保健婦さんに相談したところ、近くのことばの教室を紹介してくれました。そんな子どもでしたが、ことばの教室に通ってから、ことばも三語文、四語文と続けられるようになりました。家庭では、指先を使うパズル、カルタ取り、そして本の読み聞かせをしました。するとことばが次々と出てくるようになり喜んでいます。以前、親の会の学習会に参加のおり、他のお母さん方の話を聞き、ハッと思い当たりました。ことばを出させようとあせったあげく、早口で語りかけ、何度も同じことばを強制した数か月を反省しました。それからは、幼いながらも人格を尊重した上で子どもに接していこうと考えました」。

＊

この手記にも触れてありますが、ことばはことばだけで教えるのではなく、家庭をめぐるよい環境の中で自然に培われるものなのです。

ことばの教室を担任し、こんなことを強く感じている昨今です。

（宮宿小学校
ことばの教室　大熊篤久）

ひろば

会話をはずませながら作業するみなさん

高齢者センターのクラブ員たちが 1万本 ダムまつりの燈篭作り

上郷ダムまつり・花火大会の開幕セレモニーは、先祖の霊を慰める一万本の燈篭への点火で始まります。湖面を彩る幻想的な燈篭は花火大会の一つの目玉。

この燈篭作りにあたっているのが、高齢者生産活動センターのクラブ員たちです。同センターができた十年ほど前から「町の行事に私達のできる協力を―」と始められたもので、八月五日、集まった二十人のクラブ員たちは、慣れた手つきで、一本一本のロウソクに障子紙を巻く作業に取り組んでいました。

渓流まつりを楽しむ青山さん（右）

「山村留学」の子供たち "第二のふるさと"で楽しい夏休み

今年の3月まで、立木小学校に1年間の「山村留学」をしていた尾崎太啓くんと青山美露久さん、それに嶋崎桜子さんが夏休みを利用して8月上旬、家族とともに来訪。それぞれお世話になった里親宅の「おとうさん」や同級生と、互いの近況を報告しながら再会を喜びました。

また、皆さんは滞在期間中、朝日川渓流まつりに参加したり、朝日自然観のコテージに宿泊して、思い出多い第二のふるさとの夏を楽しみました。

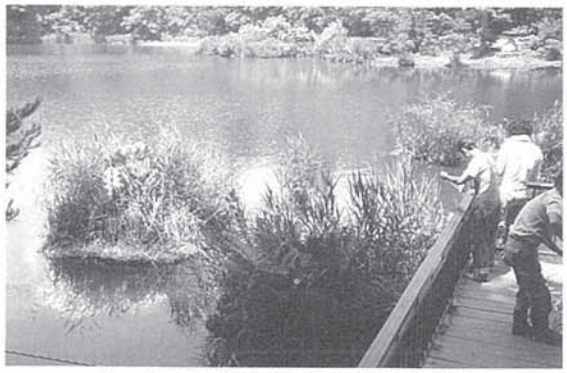
「日向(ひゅうが)島」が誕生

大沼浮島の「島祭り」

神秘の湖沼、浮島で有名な国の名勝地大沼で七月十六日、恒例の伝統行事「島祭り」が行われました。

この行事は毎年ひとつ、新たな島を沼べりから切り出し誕生させる神事で、島には「出羽」「陸奥」といった、昔の日本の六十余州の国の名をとって名前が付けられます。

大沼区民や来賓など五十人あまりが集まった沼のほとりでは、はじめに祭りを執り行う神事の後、直径一メートルほどの新島に今年は「日向(ひゅうが)島」と命名されました。



ゆったりと浮遊する浮島はまことに神秘

町民の

隣のリンゴ家族

堀ひろき (8)

目かくしをして、手や足の感性を養うネイチャーゲーム

はじめてのカヌー体験に子供達は大喜び

ネイチャーキャンプで自然をまるごと体験

カヌー教室も人気上々

夏休み中の小学三年生以上を対象に、八月三日から二泊三日の日程で、一ツ沢の自然（ネイチャー）を教室にした「ネイチャーキャンプ」が行われました。参加者は子供二十六人と指導員のおにいさんたち。

このキャンプではテント設営や食事、班活動のプログラム作りまで子供達が自主的に行い、活動のすべてが大自然に体ごとすっぽりと包まれた生活を体験。

また今年は、雪谷の最上川河畔を利用して「カヌー教室」も行われ、最初こわがっていた子供達もすっかりカヌーのとりこになってしまいました。

ジャガイモの実って、食べられるのかな？

ジャガイモの"実"がなったよ

皆さんはジャガイモの実を見たことがありますか？私たちが一般に「ジャガイモ」と呼んで食べているのは根の部分です。

このほど、石須部の長岡健一さん方のジャガイモ畑で、ミニトマトのような直径一センチほどのめずらしい実を見つけました。長岡さんの話では「例年より十日ほど遅く種イモを植えたことと、よい天候が続いたためでは？」とのこと。雨の少ない夏の出来事です。

最優秀の「空気神社」構想図

空気の営みを鏡板に映す

「空気神社」の姿、決まる
東北工大の谷津さんが提案

提案者の谷津さんと共同提案者の田村博さん

人間の生命源ともいえる空気の存在とその保全や大切さを訴える、世界に例のない「空気神社」の建立計画。町内有志による空気神社建立奉賛会（菅井敏夫会長）が今年の五月末まで募集していたコンペ（建築設計競技）で、このほど入選作品五点が決定。七月二十九日に県商工会館でその発表を兼ねた入賞者への表彰式が行われました。

このコンペには全国の建築家などから空気をイメージしたユニークでアイデアいっぱいの作品、五十一点が応募。保坂陽一郎武蔵野美術大学教授や木島安史熊本大学教授ら、建築学界を代表する五名が審査した結果、東北工業大学助教授で建築学科専門の谷津憲司さんの作品が最優秀に決定。

谷津さんの作品は社殿のイメージとは一見異なり、六メートル四方の鏡状の金属板を使った「能舞台」風の作品。説明によると「空気の営み」である四季折々の自然の姿を一枚の鏡板に映し出すというもの。また舞台の床下には、能舞台と同じように十数個の素焼きの瓶が埋め込まれ、舞台上で発生する音を反響させる仕組みとなっています。

同奉賛会では今後も建立資金を募りながら、白倉の「朝日自然観」そばに、この設計をもとに来年五月まで「空気神社」を建設。町の新たな観光の目玉にしようと取り組んでいます。

ベテラン 雪谷丸が2連覇

仙台の女性チームも初挑戦
最上川激流イカダ下り大会

夏の恒例イベントとなった第七回全国イカダ下り選手権大会が七月三十日、最上川でも屈指の激流とされる「五百川郷」八キロを舞台に行われ、仙台や関東方面など県外十四チームを含む五十五チームが、賞金十万円をめざしてタイムレースに挑みました。

今大会には昨年優勝の雪谷丸と、一昨年大会で二連覇を果したテンプク丸の両雄が出場。また「マドンナ旋風」に乗ってか、仙台から若い女性だけのチームが参加して人気を集め、大会を盛り上げました。

今年は特にから梅雨で少雨熱夏。当日も気温三〇度を越す真夏日で最上川の水量も少なく、コース途中は川底が見えるほど。イカダが浅瀬に乗り上げ、引いたり押したりの悪戦苦闘。体力との勝負といったレース展開となりましたが、全チームがゴールの明鏡橋まされましたが、うす曇りのまずまずの天気で町内外から涼と〝漁〟を求めて、家族連れなど千二百人が魚のつかみ取りに挑戦しました。

まつりでは、ニジマスやイワナ、コイなど、一般のつかみ取り大会とともに、

涼を求めて千二百人が 魚たちと追いかけっこ

朝日川渓流まつり

最上川のイカダ下り大会に続く夏のラブリバーフェスティバル第二弾、朝日川渓流まつり・魚のつかみ取り大会が八月六日、立木河川公園で開かれました。

当日は、東北地方に近づく台風十三号の影響が心配

2連覇を果した雪谷丸三勇士

女性の三勇士も54位で無事ゴール

で〝完流〟しました。

総合成績の結果、本命の雪谷丸（鈴木喜一さん、鈴木正巳さん、鈴木春夫さん）がテンプク丸を十八秒の差で押え、タイム一時間四十六分二十一秒で去年に続いて二連覇を果しました。

●五位までの成績

優勝　雪谷丸
第二位　テンプク丸
第三位　清野建設号
第四位　栗木沢火消し丸
第五位　天神丸

幼児を対象とした金魚すくいやご婦人に限定したウナギのつかみ取りコーナーが設けられ、歓声を上げながらも必死にウナギを追う姿が、見物客に回ったダンナさん方を楽しませました。

また、会場には地元立木区で用意した、焼魚などを売る露店が立ち並び、まつり気分を盛り上げました。

清流はふるさとのシンボル

大自然こそ〝教室〟

新田舎人、ブナの森を行く

自然には人を引きつける魅力がいっぱい

皆さんはブナの森に行ったことがありますか？「町の木」であるブナの自然界での営みやすばらしさを知ろうと、中央公民館が主催する新田舎生活講座「ブナの森を歩こう」が七月十二日から一泊二日で開かれました。〝教室〟は朝日連峰の大自然。受講者三十人のうち半数が町外の方。

一日目はスライドを使って、写真家の姉崎一馬さんと朝日ナチュラリストクラブ主宰の西沢信雄さんのお話。二日目は実際にブナの森に入って自然観察。参加者は新たな発見にもう、ブナのとりこ。

今月の顔

東北大会初出場で堂々3位
朝日中バスケ部キャプテン

宿　菅井　一くん（三年）

「リバウンドを取ったらすぐ速攻がチームのモットー」。部員四十人を誇る朝日中男子バスケットボール部のキャプテン、菅井くんは一七四センチの長身で、伝統ある和合ミニバスケットボール少年団の出身。

このほど開かれた中学校県大会で初の優勝を果し、夢であったはずの東北大会では準決勝へ難無く進み、優勝校の秋出大森中学に惜しくも小差で敗れはしたものの堂々の三位。ほかの出場チームと比べ、全体的に背は高いとは言えないが、「ここまでこれたのも、みんなが一つになって練習に励んできたから」と屈託のない笑顔で答えてくれた。

学校生活での一番の思い出となったこの大会の後、三年生部員は高校受験の準備のため、現役を退くことになる。「ぜひ来年は全国大会をめざしてがんばってほしい」と後輩へ〝パスボール〟。今回の活躍は、ミニバスケットの少年たちにも大きな励みとなった。

思いきり躍動／21世紀の主役たち

べにばな国体

デモンストレーション・スポーツ行事

壮年ソフトボール大会 朝日町会場に開催決定

3年後の平成4年に、山形県で第47回国民体育大会（べにばな国体）の開催がこのほど正式に決定。べにばな国体は冬季、夏季、秋季にわたり、全競技を本県で開催する完全国体です。

山形県ではこの決定を受けて、さらに会場の整備と選手の強化をはかるとともに、正式競技の会場とならない12町村でも、デモンストレーション（公開行事）のスポーツ大会を開催し、44の全市町村が国民のスポーツ祭典に積極的に取り組むことを要請。朝日町でも、県内陸部の壮年ソフトボール大会の会場地に決定し、町と体育協会を中心に、その受け入れの体制づくりをすすめることにしています。

大健闘の朝日中男子バスケット部

中学校

東北大会で堂々の三位
「バスケットの朝日」県内外に印象づける

七月二十二日から酒田市などを会場に、第二十九回山形県中学校総合体育大会が開催。

朝日中学校からは、剣道男子団体、個人一人、女子個人二人、バスケット男女、ソフトボール、卓球個人一人、水泳一人、陸上六人と、朝日中創立いらい、最多の選手が地区代表として出場。各選手とも「朝日魂」を存分に発揮し、男子バスケットが優勝、剣道女子個人で池田梨絵選手がベスト八に入り東北大会の出場権を獲得するなど、すばらしい成績をおさめました。

特に男子バスケットは、これまでの厳しい練習の成果が十分に試合に現れ、好調なすべりだしで勝ち進んで、決勝戦では六四対三五のダブルスコアに近い得点で酒田一中を敗り初優勝。

その後、八月四日から福島市で行われた東北大会に県代表として初出場。初日のブロックリーグ戦で二連勝し、山形県として初の準決勝に進みましたが、惜しくも優勝校の秋田・大森中に小差で惜敗。大きなタイトルを逃したものの堂々の三位に入賞し「バスケットの朝日」を県内外に印象づけ、応援にかけつけた父兄らも大きな拍手で選手の健闘をたたえました。

●男子バスケット出場選手
▽監督 富樫誠教諭▽コーチ 清野久憲(四ノ沢)▽選手 菅井 一（以下三年）・海野敦史・岸 直幸・海野秀明・鈴木伸治・鈴木真英土屋昌広・佐藤 拓・佐藤宏憲・熊谷 忍（以下二年）菅井 誠・相座朋樹・鈴木秀則・柴田 明・大竹 成

宮宿小

伊藤、阿部両選手が大会新をマーク
西村山地区小学校水泳大会

七月二十八日、寒河江市民プールで西村山地区の小学校水泳大会が開かれ、宮宿小学校五年の伊藤選手と阿部選手が五十㍍バタフライと背泳ぎで大会新をマークするなど、地元選手らが大健闘しました。入賞者は次のとおりです。

■男子六年▽五十㍍自由型②長岡輝（上郷小）34秒63▽百㍍バタ②志藤修（大谷小）1分35秒48 **■女子五年**▽五十㍍自由型①清野奈美（宮宿小）38秒31②柴田由香（上郷小）38秒89▽五十㍍平⑥佐々木千春（大谷小）49秒58▽五十㍍バタ①伊藤由香里（宮宿小）39秒05 **大会新**▽五十㍍背①阿部真子

西ドイツのスポーツ少年9人が西村山市町を訪問

はたちの女性・ウーティさんが町にホームスティ、交流深める

スポーツは言葉のいらないコミニュケーション

国際交流はスポーツの分野においても盛んです。このほど日本体育協会が主催する日独スポーツ少年団同時交流事業で、西ドイツの少年たちが来日。そのうち九人の一行が七月三十日から七日間、西村山の各市町に分かれてホームスティを行いながらスポーツ施設や観光地めぐり、また高校生らとスポーツや生活を通しての交流を深めました。

八月三日には一行九人が朝日町役場に表敬訪問。熊坂助役と鈴木正巳町スポーツ少年団本部長らが出迎え歓迎しました。その後、左沢高校朝日分校の生徒十人とともに大沼の浮島や朝日自然観を見学。キャンプ場ではバーベキューを囲みながら交流事業のテーマである「青少年と余暇」について意見を交換し合いました。

一行のメンバーは中学生から大学生、一般社会人までと幅広く、その中の一人ウーティ・エーデルマンさんというはたちの女性が、西船渡の宮本建一さん宅に四泊五日のホームステイ。ウーティさんはマンハイム市出身でスイミングクラブに所属。宮本さん方では高校生の娘さんらと一緒に朝日川渓流での水遊びを楽しんだり、奥さんから茶道の手ほどきを受けるなど、朝日町の夏を体験しました。

自然観の展望台からのながめは最高

宮本さん宅では茶道を体験

（宮宿小）41秒47**大会新**⑤佐藤幸子（和合小）48秒71

■**女子六年**▽五十㍍バタ⑥柴田朋実（上郷小）42秒03▽百㍍自由型④柴田恵美（宮宿小）1分24秒10▽百㍍平④阿部啓子（大暮山）1分44秒56⑤渡辺一美（大谷小）1分45秒05▽百㍍背⑥遠藤真紀（大谷小）1分46秒12▽二百㍍メドレーリレー③宮宿小2分50秒01▽二百㍍リレー②宮宿小2分26秒46

スポーツ少年に温かい励まし

大谷剣道スポ少に手ぬぐい二百本

このほど大谷一の白田繁司さんから、大谷剣道スポーツ少年団に手ぬぐい二百本が贈られました。白田さんからは数年前にもいただき、今度で二回目。豆剣士たちはさっそく、紺に白字で「必勝」と染めぬかれた手ぬぐいを頭にまき、暑中げいこに励んでいます。

朝日中剣道部に運動着の贈り物

このほど朝日中学校剣道部に、大谷三出身の長岡正美さん（37歳）から、トレーニング用の運動着三十六着が贈られました。長岡さんは旧大谷中剣道の大先輩。現在、群馬県伊勢崎市で運動着などの織物製造会社に勤められており、スクールバスの運転業務をしているお兄さんの長岡毅さんを通して七月十九日、部員らに運動着が手渡されました。

グリーン色の運動着が贈られた

ほやほや新婚さん

常盤／齊藤　敏則さん
あさみさん

出逢いから一年間の交際をへて、この六月にゴールイン。秋田生まれのあさみさんは、遠く米沢の病院へ通勤するガンバリ屋さん。敏則さんは農協へ勤める若手のホープ。二人ともドライブ好きだが、仕事が忙しくておあずけ。今、祖父母、父母、敏則さん夫妻の三世代家族で、四世代となる日が待ち遠しい。「二人三脚で明るい家庭を築きます」ときっぱり答えてくれた。

（小松敬　広報委員）

＊おしあわせに

7月1日～7月31日届出

（婚姻届）

大町　真室川町
渡辺　俊一♥舟生　一葉
宇津野　寒河江市
渡邊　惣治♥仁藤　智晴
常盤　米沢市
齊藤　敏則♥武藤あさみ

＊すこやかに

（出生届）

区名	出生児氏名	父親名
四ノ沢	伊藤あおい	真悦
西町	橋間　英梨（えり）	友則
能中	海野　喬俊（たかとし）	健市
古槇	渡邊　拓真（たくま）	達美
西町	遠藤　夏美（なつみ）	雅広
常盤	海野　哲也（てつや）	隆博
大暮山	長岡　郷清（ごうせい）	一郎
大谷四	荒木　佑美（ゆみ）	和弘
松程向	和樹（かずき）	利和

＊やすらかに

（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
夏草	阿部孝一郎	きく
宿	佐藤ふみゑ	哲夫
大谷五	佐藤　榮松	榮
立木	長岡たけの	勇太郎

＊人口と世帯数

7月31日現在（対前月）

人口　一〇、八五四人（一）
男　五、三九〇人（一）
女　五、四六四人（一）
世帯数　二、五九八世帯（四）

おわびと訂正

本紙『広報あさひ』七月号の一六ページで、新しく発足した東京「あさひまち会」の話題をお知らせしましたが、会長に就任した志藤六郎さんの出身区は、正しくは栗木沢でした。深くおわびして訂正します。

善意のかご

夏草の佐竹さんが育英チャリティ絵画展開く

町の教育委員長で、画家「禾王」の雅号を持つ夏草の佐竹瑞穂さんが、一昨年に続き、七月七日から六日間、中央公民館で育英チャリティ絵画展を開催。その売上金三十七万五千五百円を朝日町育英会にご寄付いただきました。

すばらしい作品が並んだ絵画展

せせらぎ

▼わが町は七月に大きなイベントを組んだ。すなわち、大沼浮島「島まつり」、空気神社コンペティション発表、最上川激流全国いかだ下り大会がそれである。▼この三つのイベントに共通して言えることは、民間団体が主催であり、町民たちの熱気ある取り組みが見られたということである。しかも、森や空気や水などの自然を生かし大事にして行こうという思いをこめた取り組みなのである。▼空気神社設計の最優秀賞は仙台市の谷津憲司氏に輝いたが、この設計は、山頂に一枚の磨かれた金属板（鏡）が置かれているだけのものである。鏡は空間に支えられ、下部に音を増幅する瓶を埋め込む。鏡は空気層の四季を映し、下部で空気を音と化すのである。▼家族旅行村のオープンも間近であるが、名実ともに朝日山麓の大自然を満喫させる憩いの場であることを忘れないでほしい。（杉）

広報あさひ　393号　発行/山形県朝日町　編集/朝日町広報委員会　平成元年8月15日発行　印刷/山形市　豊田太印刷所